令和６年度　北陽中学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：32004

実態

「学ぶ力」

これまでの成果	課　題
◇札幌市の共通指標のアンケートの項目において、「人の意見を聞いて、それを参考にして自分の意見を見直すことがある」の肯定的な回答が９割を超えている。これは話し合う活動などが生徒にも肯定的に受け入れられており、自分の考えを深化させることに繋がっていると考えることができる。	◇札幌市の共通指標のアンケートの項目において、「１日の時間の使い方を自分で考えて生活している」や「自分で計画を立てて勉強している」といった項目で、肯定的な回答が７割を切っているため、主体的で自己調整を適切に行った学習を行っているとは言い難い状況にある。

「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く**相互承認の感度**〉　の現状と課題

◇札幌市の共通指標のアンケートで、「人のよいところを見付けようとしている」「人の役に立ててうれしいと感じることがある」「人の役に立つ人間になりたいと思う」の肯定的な回答が９割、「自分にはよいところがある」では８割以上の生徒が肯定的な回答をした。一方、「自分が必要とされていると感じる」では肯定的な回答が７割を切っている。自己肯定感は高いが、誰かの役に立っているという自己有用感が伴っていないことが要因と考えられる。協働探究を実践し互いに学び合い、高め合う活動を経験する場を設定し、協働して学びを深めることができたと実感できる授業づくりが課題である。このような授業を通し学級への所属意識を高めることが、自己有用感を高め社会の一員として自分にも役割があると認識できるようになると考える。

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

協働での学びを通して、互いを認め合う機会を設け、学びに向かう力を育む

取組

AAR サイクルの視点で捉え直した **課題探究的な学習**の推進

◇研究副主題「自己有用感を高める学び」の実現

〇Anticipation（見通し）：学習課題が社会とどう関わるかを把握し、課題を解決する意味や意義を意識づける。

〇Action（行動）：協働探究で生徒同士が学び合い・高め合う活動を通し、集団への所属意識や自己有用感を高める。

〇Reflection（振り返り）：学習課題を振り返ることで、学んだことと社会との関わりを改めて捉えなおす。また、社会の一員として役割を果たしていく意識を高める。

さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく **自治的な活動**の充実

◇３年間を見通した学級活動の計画性

自己肯定感・自己有用感を高めるため、以下の目標で学級・生徒会活動を行う。

１年生：生徒と一緒にやって見せる

２年生：生徒にやらせて見守る

３年生：生徒が自ら行う

◇学校行事での振り返りの設定

協働して達成したり解決したことを振り返ることで、自己肯定感・自己有用感を高める。

〈本プログラムの実行に向けて〉

新年度
◇本プログラム共有
・職員会議（４月中）
・パートナー校間会議
など

〔一人一人の教職員〕
◇日常の授業・教育活動
◇各自の自主研修

〔学校全体〕
◇実践交流・校内研修
※１１月頃か
◇実際の生徒の成長を共有
※校内研修・パートナー校

次年度へ
◇学校評価
◇成果と課題を共有
・校内研修会（２月）